

ボーイスカウト東京連盟  
あすなろ地区広報誌  
第9号

2016年4月7日  
組織拡充委員会

## ビーバー集合！ 楽しい歌とゲームの教室

3月6日（日）、セシオン杉並の体育室で「楽しい歌とゲームの教室」が開催され、あすなろ地区の11の団のビーバー隊のスカウト、体験の子供たち、父兄、リーダーが集合し、「ビーバー合同集会」となりました。

「楽しい歌とゲームの教室」は、昨年11月6日に中野四季の森公園で開催予定だった「なかのまちめぐり、みんなであそぼう！ワクワクランド」が雨天で中止になったため、開催されたものです。

開会セレモニーでの鈴木地区委員長、杉並区児童青少年課伊藤課長の挨拶に続いて、参加者は裏返しになったカードを拾い、描かれた各動物のチームに分かれたあと、チームごとに新聞紙の「島」に立ち、ジャンケンに負けると新聞紙が切り取られて次第に小さくなっていくゲーム、新聞紙の上に置いた風船を落とさないように運ぶゲーム、紙テープの輪が切れないように走るゲームなどを行いました。

各チームとも大きな歓声と笑顔にあふれた応援をしながら、お互いに協力してゲームを楽しみ、成績のよかったチームには表彰がありました。

最後にビーバーのみんなで行って手をつなぎ、大きな輪を作って歌を歌い、お別れしました。



鈴木地区委員長の挨拶



カードに描かれた動物でチーム分け



ジャンケンで勝負



負けると島が小さくなります



新聞紙に乗せた風船運び



新聞紙のボールで一周



紙テープの輪で一周



猛獣狩りに行こうよ！



成績優秀チームの表彰



高橋協議会長の挨拶



大きな輪になってお別れ

## 都心を走る 東京マラソン

2月28日（日）、10回目を迎えた東京マラソンが開催され、杉並11団、12団、中野3団、5団、11団のベンチャー隊とローバー隊のスカウト、指導者がスタート地点に近い都庁北、新宿警察署裏交差点などで道案内や交通整理などの奉仕をしました。

東京マラソンは3万6000人を超えるランナーが走るため、入場ゲートはあらかじめ指定されており、スカウトは地図を配布したり、ゲートの方向を示したプラカードを持って案内しました。ゲートへの道順を尋ねる方も多く、外国人の参加者には英語での案内もありました。

都庁前を車いすの選手がスタートしたあと、リオデジャネイロ五輪代表選考レースの選手などが駆け抜け、皇居、銀座、浅草などの東京のメインストリートを楽しみながら走る市民ランナーの長い列が続き、沿道の大勢の人たちから大きな声援があがっていました。



1ブロックのメンバー



2ブロックのメンバー



## 富士スカウトおめでとう 富士スカウト章顕彰のつどい

3月13日（日）、アルカディア市ヶ谷で、27年度中に富士スカウト章を受章したスカウトの「富士スカウト章顕彰のつどい」が開催され、あすなる地区では、杉並5団の稲川拓海、杉並11団の北原慎一郎、三好愛、西村福太、杉並12団の水野飛翔、中野8団の小倉知樹の皆さんと父兄、団関係者、各地区、東連の役員などが集まりました。

プロジェクト発表会では、富士スカウト章を受章した一人ひとりが、富士スカウト章の挑戦にあたって選んだ各自のプロジェクトについて、学んだこと、苦勞したことなどを発表しました。

受章者には富士スカウト章記念バックルが贈呈され、顕彰のつどいでは、東京連盟小町理事長から、「本日から新たな一歩であり、後輩をサポートし、リーダーシップを発揮していただきたい」との激励の挨拶がありました。

会食、懇談後、各地区ごとに受章スカウトの紹介があり、参加した全スカウトを代表して、杉並11団の三好愛さんが答辞を行いました。



稲川拓海さん



北原慎一郎さん



三好愛さん



西村福太さん



水野飛翔さん



小倉知樹さん



あすなる地区の参加者



三好さんの答辞

## キャンプ技能を向上 スカウトキャンプ研修会

3月12日（土）から13日（日）まで、第210回スカウトキャンプ研修会が杉並13団の大宮八幡宮スカウトの森で、日本連盟副リーダートレーナーの山本房則主任講師を迎えて開催され、15名の方々が参加されました。

スカウトキャンプ研修会では、参加者は3つの班に分かれて、テント技術、野外料理、ナイトプログラム、野外工作などについて、班担当の細かな指導のもと、スカウト技能の基本に忠実に作業して、体験しながら学びました。

すでに各隊でキャンプを経験している指導者でも、後輩のスカウトを指導するためには、キャンプ技能の基本を体験しながら学ぶことが大切ですので、未修了の方は受講をお勧めします。



## 研修所・実修所参加のための事前課題研修会

2月20日（土）、あんさんぶる荻窪にて、「研修所、実修所参加のための事前課題研修会」が、あすなる地区トレーニング委員会の主催で開催され、研修所、実修所参加希望の多くの方々が参加しました。

開会式のあと、参加者は隊指導者部門と団指導者部門に分かれて、コミッショナーグループと日本連盟トレーナーにより、課題研修への取り組みに関する支援が行われました。

スカウトにより良い活動を提供できるよう、まだ研修所を修了していない隊長・副長・団委員等の指導者は、都合のよい日程に合わせて、研修所、さらには実修所への参加をお勧めします。



開会式



各部門に分かれ、課題研修などの話し合い



## 指導者訓練に参加される方々への期待

地区コミッショナー 佐藤武信

今春の指導者訓練コースに、我が地区より17名の指導者が参加されます。内訳は、基礎訓練課程に12名、上級訓練課程に5名です。

お忙しい中、スカウトたちのためにありがとうございます。送り出してくださる家族・団と隊・会社等に感謝申し上げる次第です。

過日、2月20日（土）には、参加に向けて取り組みが必要な「事前課題研修・研究会」を開催し、秋のコース参加予定者も含めて、24名の方々にご出席いただきました。

まず期間ですが、指導者訓練では基礎訓練・上級訓練ともに3泊4日、団指導者訓練では基礎訓練・上級訓練ともに2泊3日になっています。

内容は、隊指導者訓練では「隊のプログラムプロセス」に重きを置いたプログラムトレーニングを主とし、団指導者訓練では、「団のマネジメント」に重きを置いたマネジメントトレーニングが主となっています。

スカウト・指導者の減少が止まらない原因として、逆に申しあげれば増やすための施策として、創始者ベーデン・パウエルが提唱した「スカウティング」をスカウト達に提供することが、今現在強く、隊指導者や団指導者を支援する団指導者に求められております。そのために指導者訓練の内容も新しくなりました。

指導者訓練で学んだことは「理想論・・・」または「それはそれで・・・」ではなく、ベーデン・パウエルの「スカウティング」を提供することが皆様方の責務です。その責務を果たしていただくために、ぜひ研修で学んだことを実際の隊運営や団運営に反映させてください。そして皆様方のスカウト達に「あるべき姿」を提供していただく原動力となって下さることに期待しております。

今こそ！スカウトたちのために「初心忘れるべからず」「基本に忠実、応用に果敢」を、実践していきましょう。



## バザーを開きました 杉並9団

杉並9団のバザーが、3月21日（月）、団本部の浜田山キリスト教会で開催されました。

杉並9団では、毎年11月3日にバザーを開催していますが、教会の改築工事のため昨年は11月にバザーを開催できず、今年の3月21日に延期になったものです。

午前11時のバザー開始前から、教会の前には多くの方が列を作り、1階の喫茶コーナーではカレーライス、豚汁、おにぎり、いなりずし、手作りそうざいなどが販売され、2階では衣料品、雑貨、食器、手芸品など数多くの掘り出し物が並びました。

また庭ではスーパーボールすくいのゲームや、スカウトが立ちかまどで焼いた焼き鳥、フランクフルトのほか、クレープ、フルーツポンチ、たこやき、綿菓子の模擬店も並び、盛況でした。

なお、杉並9団はこれまでビーバー隊がありませんでしたが、本年10月にはビーバー隊を結成する予定で、ビーバースカウト募集のパンフレットも作られて準備をすすめており、バザー会場に仕切られたコーナーでは、体験入隊の説明や入団説明会も開催されていました。



バザー会場の入り口



多くのお客様がお見えになりました



食品販売のコーナー



スーパーボールすくい



綿あめ、たこやき



立ちかまどで焼き鳥



フランクフルト



教会の前庭

# 熱海から100kmハイク

# 中野7団 ベンチャー隊 ローバー隊

中野7団ベンチャー隊とローバー隊では、3月19日(土)午前9時に熱海駅を出発し、早川駅→大磯駅→藤沢駅→西横浜駅→多摩川を渡り、20日(日)に五反田駅をゴールとする100kmを24時間以内で歩くハイクを実施しました。

参加者は窪寺雄大、関口流星、本 紗希、本 和陽、中里 晃、千葉友希、森賀崇行の7名で、完歩者は千葉友希、森賀崇行、本 紗希の3人でした。



ベンチャー隊 千葉友希	ベンチャー隊 森賀崇行	ローバー隊 本 紗希
<p>とりあえず100キロを21hで歩けたのでよかった。今回は道を詳しく調べていなかったため陸橋が多く大変で、そのせいか本来より長距離に感じられた。次回は事前に道を調べるなどの対策が必要だと考えた。ペース配分は—最初はゆっくり後々早く—と予定とは逆になってしまっていて、スケジュールも改善が必要である。 (完歩時間：21h30m)</p>	<p>最初はペースが遅く24時間以内に歩けるか危ぶまれたが徐々にスケジュールとの差を詰め、藤沢で時間を合わせて100キロ歩ききれた。ペース配分は前半を山とする改善が必要だが、概ね成功したと考えられる。一緒に歩いてくれた仲間、応援してくれた方々、朝から晩までサポートしてくれたリーダー、100キロハイクを理解して送り出してくれた両親、本当にありがとう。 (完歩時間：21h30m)</p>	<p>事前の計画をしっかりと把握しておらず、チェックポイントに着く予定時間が曖昧になってしまった。計画者と参加者間の情報共有が不十分だったのではないかと思います。怪我や疲労対策については、各自考えて行っていたと思います。私は足の裏に貼ったテーピングの位置が悪く、途中で靴を脱いで張り替えました。次回の機会があれば、今回の経験を活かし止まる時間を少なくできるようにしたいと思います。 (完歩時間：23h30m)</p>
ベンチャー隊 中里 晃	ローバー隊 関口流星	ベンチャー隊 本 和陽
	<p>過去にない距離・時間を歩くことで忍耐力などは養えた。脚が限界になるまで歩いたので自分の限界にも挑めたが、途中で断念して75キロ時点でリタイヤ。目標達成ならず。予行として50キロでの練習などをしておくといいかもしれない。</p>	<p>100キロ歩ききる事ができなかったが、忍耐力・持久力を養えた。己の限界より先に体の限界が来てしまったから気持ちと体の限界の両方を伸ばしたいと思った。ほぼ自分のペースで歩けたが、地形の解らない所だったので不安になり1人にならないよう前の人に追いつこうと思ったので自分のペースが乱れた部分もあった。</p>
ローバー隊 窪寺雄大	ローバー隊 隊長 三澤正一	中野7団 100km ハイク歴史
<p>普段のスタミナの自信で、油断が大きくな敗因になってしまった。次回リベンジするなら、事前のスタミナ作り、前日の十分な睡眠と荷物準備を心掛けたいと思います。また体の衰えを感じたので、日常の体力作りを行ないたい。</p>	<p>昨年は中野7団の発団50周年の節目の年でした。中野7団が初めて100キロハイクを実施して40周年の今年、奇しくもVSとRSスカウトが100キロハイクを自発的に計画し、3月に実施しました。参加した隊員の皆さん、お疲れ様でした。各自がこの経験をこれからの人生に活かしていけると信じています。そして、先達としてここで得た経験をどうか後輩にも伝えて行って下さい。 (第一回目完歩)</p>	<p>第1回 1976年10月10日 中野から城ヶ島 第2回 1981年10月10日 中野から熊谷 第3回 1993年10月10日 富津から中野 第4回 1997年10月10日 小田原から中野 第5回 2016年 3月16日 熱海から五反田</p>

## あすなろローバー総会を初めて開催

3月18日（金）、あすなろ地区としては初めて、「あすなろローバー」の総会があんさんぶる荻窪で開催され、各団のローバースカウトと指導者が集まりました。

この総会は清田義隆さん（中野8団、ベンチャー隊副長）の呼びかけによるもので、清田さんがこの1年、あすなろ地区ローバー年代の代表者として東京連盟の代表者会議に出席して情報収集・情報交換を図り、地区においても、「あすなろ地区のローバー年代有志」による「あすなろローバー」の初年度の活動がスタートしていることから、28年度に向けての準備を開始するため、開催したものです。

総会では27年度と28年度の活動、会計の報告のほか、28年度代表者として杉並13団の小原翔さんを選出し、「あすなろローバー」憲章の制定、「全国ローバースカウト会議」についての情報などが議題となりました。



### 「全国ローバースカウト会議」とは…

「全国ローバースカウト会議」は、ローバースカウト同士の情報交換の場の提供や提言活動などを通して、全国のローバースカウトの活動を活性化し、ボーイスカウト運動の発展に寄与することを目的として、平成24年5月に設立された組織で、日本連盟に加盟登録するローバースカウトまたは同年代指導者によって構成されます。

会議は各県連から選出されたローバースカウトの代表者で構成され、毎年「全国ローバースカウト会議」が開催されています。

地区内のローバースカウトにおいては、各隊や団の活動をベースとしながら、全国の同年代スカウト、指導者として協働し、視野と活動領域を広げて、全国的なネットワークに広げていくことが期待されています。

なお、詳細については日本連盟のホームページに記載されていますので、ご覧ください。

### 平成28年度 あすなろローバー代表として 杉並13団 小原 翔

この度、あすなろローバーの平成28年度代表を務めさせていただくことになりました。

自団ではボーイ隊の隊長を務めさせていただいたり、進歩委員会やトレーニングチームにも奉仕をさせていただいております。だからこそ、あすなろローバーの立ち上げに協力させていただいた時も、そんな“指導者目線”で参加していました。

しかし、ローバースカウトとしての活動が最後の1年間という時期を迎えた今、ローバースカウトは“スカウトである”という当たり前のことに気づきました。最後の1年間にスカウトとして出来ることは何なのか、私を含めたあすなろローバーにはまだまだ知識やアイデアがない、だからこそローバースカウトとして実感出来ることを、あすなろローバーのみんなと感じ、研鑽を積んでいければ…と思っています。



### 平成27年度 あすなろローバー代表として 中野8団 清田義隆

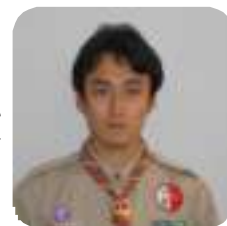
平成27年度あすなろローバー代表をさせていただきました。

現在、あすなろ地区には素晴らしいローバースカウト、同年代指導者が多く在籍しています。それぞれ各団の行事や隊の奉仕を通して活躍されていますが、「ローバーリング」を通して、私達自身の手によって成長する機会を作りたいと考え、あすなろ地区のローバー年代の方々にお声かけさせていただきました。

定例会や3月開催のローバー総会では多くの方に参加して頂き、大変喜ばしく感じています。さらに東京連盟や関東ブロック、そして全国規模で活動を展開するローバーの仲間も増え、誇らしく感じています。

あすなろローバー、メンバーの皆様が、「翌檜（あすなろ）」の木のように高い目標の檜（ひのき）になる事を目指して挑戦される事を心より祈念しています。

最後に、あすなろローバーはメンバーの他にも多くのアドバイザー、サポーターの方々に恵まれました。全ての関係者に厚くお礼申し上げます。一年間ありがとうございました。



## 平成27年度CJKプロジェクト・ Bangladesh 派遣で得たもの

中野 8 団 ローバー隊 沼上 志帆

2月12日（金）より23日（火）の12日間、「平成27年度CJKプロジェクト・ Bangladesh 派遣」で、派遣団長とローバースカウト10人で参加しました。

「平成27年度CJKプロジェクト・ Bangladesh 派遣」は、C J K（台湾・日本・韓国）の3カ国連盟合同のプロジェクトで、Bangladesh で平成24年まで15年間続けられたアジア太平洋提携プロジェクトと、フィリピンで平成24年まで10年間実施されたCJKプロジェクトの2つの国際協力プロジェクトを発展させたもので、平成25年度から6カ年で行われます。



第3回目となる今回は、各連盟のローバースカウトと共に Bangladesh の首都ダッカから約50km離れたシャリアプールで、地元住民に保健衛生、環境保全、母子栄養摂取にかかわる啓発活動を展開し、また各国のローバースカウトとの国際交流と国際理解にかかわるプロジェクトを、4カ国のローバースカウト29名で実施しました。

派遣にあたっては、事前集会などで多くの情報収集をしましたが、生活面などは行かないとわからないことは多く、不安を抱えたまま行き、Bangladesh では空港に着いた瞬間から、カルチャーショックの連続でした。

衛生環境の向上のための啓発活動では、4カ国のローバースカウトで構成される国際班で、日常で使う様々な衛生用品の地域の人々への提供や、井戸がない地域とトイレがない家のチェックを行いました。また、後日行う各種ワークショップの案内をベンガル語で行い、地域のゴミ拾いも行いました。

地域の人に向けたワークショップは、CJKの3カ国は「環境衛生」と「文化」をテーマにして実施しました。日本は「燃焼効率が良いレンガでのかまど作り」や「地域にある物で作成できる洗濯洗剤」、そして「コマとけん玉」を実施して、多くの人に興味を持ってもらうことができました。

毎晩行われる各国ナイトを楽しみ、空き時間は交流をして過ごしました。ジャパンナイトでは日本の年中行事の紹介をゲームなど混ぜながら行い、大いに盛り上がりました。各国のナイトでは、その国独自の文化や伝統を体感できるものが多く、その国への理解を深めることができ、仲間の絆が一層深まりました。

私は Bangladesh で、かけがえのない時間を過ごすことができ、国を超えた大切な絆を作ることができて、Bangladesh へのイメージは大きく変わりました。嬉しそうな村の人々、楽しそうな子供たちの笑顔は忘れられません。今後もこの経験を忘れずに活動に活かしていき、後輩に伝えていきたいと思えます



各国ローバーの仲間たち



4カ国のローバーの国際班で活動



村の子供たちにコマを紹介



日用品を配布



ネッカチーフを交換（筆者右）



ジャパンナイトのあとで



## 86年前の世界ジャンボリー 杉並3団 故廣瀬文一団委員長のアルバムから

昨年7月、第23回世界ジャンボリーが山口県で開催されましたが、86年前の昭和4年8月、イギリスロンドン郊外のバーケンヘッドアロー公園で開催された「第3回万国少年団国際大会」（現在の世界ジャンボリー）に、日本から初めて、佐野常羽団長以下23名の「幹部員」と、5名の「少年健児」（スカウト）の派遣団が派遣され、当時中学生だった杉並第3団の故廣瀬文一初代団委員長は、選抜スカウトとして参加しました。

廣瀬文一さんは帰国後、イギリスのギルウェル実修所を修了して指導者の研鑽を積みながら、日本連盟理事、東京連盟連盟長代行などを務められ、平成17年11月に92歳で逝去されましたが、遺品の古いアルバムから派遣団の様子を一部紹介いたします。

大会は8月からでしたが、当時は船旅の時代で、派遣団は3ヵ月前の5月23日に神戸を出港し、船中では大会で披露する佐賀名物のお面をつけた踊りを、笛、太鼓、鐘に合わせて練習しながら、各地に寄港してスエズ運河を通り、7月10日にロンドンに到着しています。ギルウェル実修所のキャンプ場で野営した後、8月1日より2週間、大会会場で各国スカウトと交流し、国際親善の目的を果たすことができ、ヨーロッパ各国を回って10月8日、神戸に帰港しました。



上：参加時、下：世界連盟より  
ブロンズウルフ章受章時



香取丸で横浜港より神戸へ



派遣団のメンバー



エジプトでピラミッド見学



佐野常羽団長(左)



ギルウェルで工作(左廣瀬)



ギルウェルで炊事(右廣瀬)



ギルウェルで (中央団長、右端廣瀬)



大会で食事中的スカウト



大会での国名表示板(右)